



聴覚・視覚障害者のための唯一の国立大が知恵

聴覚障害のある選手にとって目の動きは重要。テフバドミントンのダブルスでは、前衛の選手は味方後衛の足音や打った音が聞こえません。どこからどんなショットを打ったかが分からず、目で見て反応するしかありません。一瞬遅れることもあります。

聞こえない分
眼球運動活発

聴者の選手に比べて発達しているはずの目の動きを生かし、反応の遅れをなくし、見て分かる指導に生かそう。筑波技術大学院生でデフバドミントンの沼倉千紘選手(35)と、聴覚障害者スポーツが専門で同大の中島幸則教授(63)が、仮想現実(VR)と視線追跡の最新技術で挑みます。

東京・神宮球場に近いベンチ
ヤー企業FOVEで、同社開発
のVRヘッドセットと視線追跡
技術を、記者が体験しました。
箱のようなゴーグルをかけ、目
の前に現れた30個の数字を順に
目で追います。上下左右に動く
点を追ったり、矢印の色に応じ
て見る先を変えたりする課題に
答えます。その時の眼球の動き



観戦しながら情報を共有できる
デジタル交流ツール「I See
e TL」の画面。聴覚障害者
も臨場感を味わえる＝東京都府
中市の東京競馬場日吉体育館で



③デフバドミントンの合宿の合間に、選手車にゴーグルをかける中島教授（奥）と仁科さん左 ④パソコンの画面上に現れた選手の眼球的動き⑤いずれも神奈川県藤沢市で

[illegible][illegible]